

令和6年度第1回 恵那市環境審議会 会議録

日時：令和6年7月25日（木） 午前10時から

場所：恵那市役所災害対策室 A・B

- 1. 開会
- 2. 水道環境部長挨拶
- 3. 会長挨拶
- 4. 委嘱書の交付
- 5. 議題
 - (1) 第2次恵那市環境基本計画【後期】の進行管理について 資料2
 - (2) 恵那市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の進行管理について 資料3
 - (3) 環境施策の取組について 資料4
 - (4) 恵那市次期総合計画の策定について 資料5
- 6. その他
- 7. 閉会
- 8. 会議の公開・非公開・・・公開
- 9. 出席者の数・・・12人中10人（以下のとおり）

氏名	選出団体等	備考	出欠
福井 弘道	中部大学	会長	出席
柘植 清成	恵那市環境対策協議会	副会長	出席
保母 鎖利	地域自治区会長会議		出席
吉田 純一	市民エコ会議		出席
坪井 弥栄子	恵那市子ども・子育て会議		出席
吉村 良	恵那市校長研修会		欠席
鈴木 雅博	恵那市農業振興協議会		欠席
小椋 正明	えなの森林づくり推進委員会		出席
加藤 規久	恵那商工会議所		出席
渡會 充晃	恵那市恵南商工会		出席
猪岡 貴光	環境省中部地方環境事務所		出席
野原 勝樹	岐阜県恵那県事務所		出席

- 10. 傍聴者の数・・・0人

1. 開 会

■事務局（進行） ただいまより令和6年度第1回審議会を開会します。本日の会議は資料をスクリーンに投影して進行します。環境基本条例第15条の規定に基づき委員から助言をお願いします。本日は委員12名中10名出席で会議が成立していることを報告いたします。この会議は公開とし、議事録は、市ウェブサイトで公開させていただきます。

2. 水道環境部長挨拶

■事務局（進行） はじめに、水道環境部長がご挨拶を申し上げます。

[水道環境部長 挨拶]

3. 会長挨拶

■事務局（進行） 次に、会長がご挨拶を申し上げます。

[会長 挨拶]

4. 委嘱書の交付

■事務局（進行） 今年度1回目の審議会なので委員一人一人を紹介するのが本来ですが、時間の関係上、新たに委員になられた方（3名）を紹介します。任期は前任者の残任期間となります。

5. 議題

（1）第2次恵那市環境基本計画【後期】の進行管理について

■事務局（進行） 議題に入ります。市環境基本条例第19条第1項により会長に議長として議事進行をお願いします。

■議長（会長） 議題（1）第2次恵那市環境基本計画【後期】の進行管理について。

[事務局から資料に基づき説明]

■副会長 不法投棄の件数について、監視員を付けたから通報件数が増えたのか。

■事務局 監視員は昨年度からではなく従前からお願いしており、人数も同じです。9件というのも令和4年度と令和5年度は同じで、市民から電話等で市役所に通報が増えた。気兼ねなく連絡いただけたらと思っています。捨てる人も増えているのかとも感じています。

■副会長 不法投棄の内容は、どのような物が多いのか。

■事務局 さまざまです。目立つのはタイヤ、テレビもある。可燃ごみが一部のところに大量に捨ててあって拾ったりというものもある。傾向は感じていません。

■議長（会長） 域外から来て、捨てることはあるのか。

■事務局 捨ててあるごみを見て投棄者の特定ができれば警察に通報するが、特定できないものが多い。レシートや家庭ごみだと名前の書いてあるものがたまに出てくるが、通報があっても特定しづらい状況です。

■委員 資源回収の拠点について、これは市の設置のものだけ。民間のものは把握しているか。

また、東野公民館に設置されているが、不法投棄があり、阿木から持ってきたものが夜中にどさっと捨てられていた。レシートなどで見て、警察にも来てもらい、捨てた人を把握できたので取りに来てもらった。知らないうちに捨てられるものがある。それと、公民館や学校に設置してあるところを毎日確認しないといけない。資源ごみでない粗大ごみが置いてあったりする。

民間の拠点でどれくらい回収されているかも把握すると良い。

■事務局 今 12 カ所 10 地域で回収量も資料に記載しており、こちらは地域で設置したもののみ。民間について市でデータを収集していない。市の回収拠点では、市内の古紙事業者、市内で資源が循環できるようにしている。民間だと、市内、市外関係なく処理する。なるべく市民はこちらの利用を促したい。

■委員 三郷愛の会で福祉団体が回収しており、市から補助金をもらっている。年間 30 万円ぐらいを回収業者と市役所の補助でいただいている。自分たちで作った施設なので、あいうきれいな施設にして業者に委託しないとだめなのか。三郷は入ってないと思うが。自分たちで作ったもう少し大きい施設がある。そういうところでやっているのはこちらに入っていないのか。

■事務局 回収拠点はそういう仕組みがない地域に設置している。三郷、明智は先行してやっているの、あえて声掛けをしていない。

■委員 今のままでいいのか。

■事務局 良い。

■委員 粗大ごみについて、東海バイオの下のところに、ある日突然ソファや家具が一式捨ててあった。振興事務所に連絡し、環境課、警察も呼んだ。目の届くところでもそうい

うことがある。山や谷だけでなく、見回り監視は大きな範囲でやるといい。監視員がいちいち回るのも大変なので、住民に意識を持たせるといい。見かけたらすぐ連絡するようにしてもらおうといい。みんなが意識を持つことが大事だと思う。

■委員 自治区では各自治会に環境委員が1名いる。監視員は地域に2名で広範囲になる。自治会の環境委員も含めてやっていくといい。今年8月に美化運動が始まる。そのとき草刈りをするので落ちている。先日も監視員に連絡した。見えないところに落ちている。看板を立てても捨てる人は捨てる。これからの進み具合では各自治会にも要請しないといけないと思う。

■事務局 不法投棄は、捨てられた場所の管理者が基本的に対応することとなり、道路等公共施設は市で対応する。難しいのは、民地の場合は市が動けないこと。

監視カメラは、市で1台持ち運びができるものを持っている。地域で日常的に捨てられる場所があれば設置するので、環境課へ教えてほしい。

■委員 資料7ページ、目標指標とKPI。市役所の二酸化炭素排出量について。市内企業でも脱炭素に向けてCO2削減に努めていく。業態で温度差はあるが。市役所では令和2、3、4年と排出量が増えている。企業も、市場の拡大や需要に応じて設備を入れたり建物を建てたり車両を入れて、CO2が増える要因もある。ここがなぜ増えているのか。削減案があるか。

■事務局 昼休みに電気を消したり、退庁するときには電気を消して帰るという節電を各課でしている。なぜ増えたのかの分析はできていない。早急に分析し、削減するよう職員一同努めていきたい。

市役所のCO2排出量は、市役所の公用車、庁舎や公共施設のエネルギーを各課から報告いただき、それを国の出している係数をかけて排出量を計算して国に報告している。

■委員 令和5年度、課題に対してどういう対策をしているか。課題解決の施策についての議論をしてほしい。計画全体に対して、目標達成に向けて、もっと大きな課題があるのかという議論もする必要がある。

■事務局 そういう意識で資料も作り、今後検討したい。第2回の会議では反映できるようにする。

■委員 環境課で、ペットボトル水平リサイクルや生ごみ処理機の補助金、雑がみ分別大作戦など、パンフレット等を作り、周知されていると思うが、まだまだ市民に届いていない。周知の仕方を考えてほしい。

■委員 ごみの不法投棄、ごみの回収率で、補助金は一般的に聞く話かと思うが、不法投棄では、捨てた人は悪意を持っているのではなく、回収の方法が分からないとか手間がかかるなどの理由で捨てている場合もある。出し方が不明であるとき、適切な廃棄方法を紹介するものがあれば、解決できると思う。それぞれの問題について、ヒアリングや、どう

いうところが問題なのかアンケートをとったり、工夫されたことがあれば教えてほしい。

■事務局 ニーズ、市民の意識を把握しないと対策が分からないので、令和4年度から始めて今年3年目になるが、毎年2千人の市民を無作為抽出してアンケートをとっている。多方面にわたり、ゼロカーボンや、生ごみ処理、ごみ回収などを聞いている。例えば、生ごみでは、どのように処理しているか質問したところ、2、3割は家庭で処理している。そういう人は市の周辺部に多い。畑を持っている人もその傾向がある。廃食用油の処理では、6、7割が固めて可燃ごみとして捨てる。まちなかを中心に生ごみ処理機の補助や、地域限定でバック型コンポストの試行し、ニーズがあると認められたので補助を始めた。廃食用油は減量化という視点で、バイオディーゼルを精製する市内の会社と相談している。

■委員 それと、何かやるとき、これは「ダメだから」と言うとなかなか行動に結びつかない。その先に夢があったり何か得られるとなると効果が変わってくると思う。

■委員 進行管理、目標指標の達成率はどのように考えているか。来年度、同じように目標指標を定めることになると思うので。達成率100%になりそうなもの、そうでないものがある。指標の付け方として、不法投棄の通報件数は、少ない方がいいのか多い方がいいのか。本来ない方がいいが、知らない間に不法投棄のごみが溜まっていくのも困るので、そういう意味では多い方がいい。目標設定をどうするか考えないといけない。基本目標3の取組した市民の割合を、アンケートに基づいて出してあるが、回答率が43%しかなく、その中の達成率が98.9%では、アンケート対象2千人で考えるとどうか。やった人は回答すると思うが、やってない人は回答しない。この評価も踏まえて目標値の設定をしないとけない。

(2) 恵那市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の進行管理について

■議長（会長） 議題（2）恵那市地球温暖化対策実行計画【区域施策編】の進行管理について。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員 目標設定の数値について。2030年時点ということだが、20年後30年後には社会状況が大分変わっていると思う。ただ想定とズレてしまうと実態と合わなくなる。2030年の目標を設定するに当たって、その時の恵那市の状況はどんな感じをイメージしているか。

■事務局 2030年と2050年が最終的な目標年。人口減少も、国の人口動態に基づき加味している。かなり減少すると見込んでいる。

■委員 加えて、他の自治体で環境基本計画の策定に参画することがあるが、三重県のある市で、数値にリアリティーがなく、一般の人が見て、何%削減ということが何を意味す

るのか分からない、個々の市の数字はあまり意味をなさない。大事なのはその先のビジョン。数値を達成したときどんな社会になるのか。農業は、育児は、というストーリー性のある絵があるといい。一般の人が数値を見ても「あ、そうか」で終わる。市民が計画に参画してもらいたいというなら、自分たちもその目標、イメージ、ビジョンに向かって協力しようということがある。市民に参画してもらうための工夫はあるか。

■事務局 この表を見ても市民には少し理解いただけないというのはおっしゃる通りだと思う。恵那市ではゼロカーボンシティ宣言をしたり、国からSDGs未来都市の選定をしてもらっている。省エネ取組ネットワークで、SDGs推進協議会を設立した。これは団体、事業者で構成している。まだ100団体ほどで少ないが、皆様と一緒に環境だけではなくSDGsが徐々に広まっていけばと思う。

■事務局 御指摘の通り、計画が数値だけになり、私も、それを達成した社会がどのようなのか皆さんとまだ共有できる状態ではないと思っている。例えば、薪ストーブ導入世帯数。これは計画を作りながら事業化を一緒に進めていたが、薪ストーブは嗜好品。1、2割の人は導入している。アンケートをとると、におい、煙は興味のない人は嫌がる。市がそれを把握していながら推進するのもおかしく、薪ストーブは保留とした。計画を策定し進行管理をしているが、次の計画までにより良い指標にしたい。

■委員 環境基本計画と比べると、こちらは、具体的な施策が見えないので質問のしようがないと思う。

省エネ取組ネットワーク構築というのは何をするのか。皆さんにネットワークに入ってもらえるのか、入って何かをしてもらうことを求めるのか、情報共有の場なのか。具体性がなく意見が出てこない。

件数、市内企業100%を出すために、5年度実績20社と88社と書いてあるが、取組等の説明では、合計108のうちの12事業者が市外とある。指標としておかしくないか。

とりあえず具体性を知りたい。

■事務局 省エネネットワークということでSDGs推進協議会を設立しており申し込めば随時加入いただける。事業者同士で、例えば商工会議所に参加していれば情報共有できるが、全く違う団体や企業と知り合いになる機会、マッチング機会の創出を考えている。情報提供として、国、県の補助事業、脱炭素や省エネにつながる情報提供をする。まずはSDGsやゼロカーボンの取組を知っていただく場として、知識や知見を、勉強会などで知っていただき、交流していただいて、新たな出会いで地域で何かすることへと発展させていきたい。

■委員 分母の会社数は何なのか。ほかの結びつきがある商工会に入っているところがある中で、そういう人たちも全部入っての数字なら、既存の結びつきからこういうところに入るということならできる気はする。その辺はどうか。

■事務局 351 社と 2573 社は、市内で事業所を把握できているところ。商工団体、会議所の会合では、会の紹介をしている。また、パンフレットも準備し、環境の会合にも参画をお願いしている。商工会と会議所も参画しているが、個々の参画団体は、それぞれの判断で加入してもらっている。引き続き継続してピーアールしていきたい。

(3) 環境施策の取組について

■議長（会長） 議題（3）環境施策の取組について。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員 2030 年に実質 46%削減という目標があるが、現状どのぐらいの削減率か。

■事務局 国から自治体の排出カルテが公表されている。直近データでは令和 5 年度がすぐ出てこないで少し古い数字になる。データが更新され次第提示したい。

■委員 そこを常に把握していないと、今の施策がいいかどうか判断しにくいと思う。できるだけ新しいデータを出してほしい。なければ古くても出してほしい。

■委員 いろいろな行政機関に行くと、EV 充電器があると思うが、恵那市役所はまだ設置してない理由はあるのか。また、いろいろな行政がなんで市役所に付けるのか、意味はあるのか。

■事務局 恵那市としては、水素自動車 2 台を市議会議長車と環境課で所有している。EV 自動車はない。急速充電器は現状設置していない。他の市役所には設置しているところがある。国から言われているのは、行政が模範を示して民間事業者の導入につながるということ。ただ、道の駅 3 カ所では設置されている。あと、市内の事業所も、宿泊事業者、コンビニにもあり、民間事業者の設置が増えれば EV 自動車が増えていく。商工会、商工会議所と相談しながら、促進セミナーをすることも考えていきたい。

■委員 排出量と森林吸収。間伐が年間 800ha の予定で現在 600 余だが、800 が現実になっていくのか。保全もやっていかないといけない。山は崩れるものも多く、担い手でやっていけるのか。どういう形で間伐と保全をしていくのか。

■事務局 年間 800 の計画で、5 年度が 673。恵那の森林は今、林齢が高くなり、保育間伐ではなく主伐更新の時期。ただ、木材需要も少なく、伐期を延長してもうしばらく管理していく。昔は間伐して山の中に残しており、作業も少なく面積が多くできたが、今は外に出せば使える材なので搬出が伴い、面積は 800 という目標はつらいと思う。ただ、恵那市の山は、手入れされてないところかなりあり、今年度から森林環境税の徴収が始まったが、森林環境譲与税を令和元年から頂いており、その財源で個人の山で手入れされていないところを、こちらから声をかけて、恵那市に任せてくれるところは、市で間伐を進め

る。その面積を増やし、しっかり管理していきたい。

■副会長 環境機運の醸成、環境教育による脱炭素機運の醸成、学校関係について。今回の委員に10年後の恵那市の未来を考えていただきたいということだったと思うが、皆様それなりの年なので、そういうことは子どもたちに聞いたりしているのか。

■事務局 総合計画を策定するために今、皆さんから意見をいただいている。市内の高校生や中学生に意見を企画課で聞いている。環境サイドの環境教育は、市民エコ会議や東海バイオさんなど事業所にも協力してもらっており、いろいろな団体、事業所に学校で出前講座をしてもらっている。皆さんに協力いただきながら進めたい。

（４）恵那市次期総合計画の策定について

■議長（会長） 議題（４）恵那市次期総合計画の策定について。

〔事務局から資料に基づき説明〕

■委員 空き家対策について、この先、空き家が増え、人が減っていくと、1カ所に集中で住むところ、農業するところ、車も1人1台での所有ではなく、スマートシティのような状態になるのではないか。先日、リニア中央新幹線の話で、東京から名古屋まで40分で移動できるのに対し、坂本駅での待ち時間が15分も20分も待っていたら何の意味もないという話もある。10年ひと昔というが、もっと早く変化している。住むところがあっても空き家をどうするか、空き地、荒廃地が、現実的に見えているので、20年後は把握できない。今をいかにして過ごしていくか決めていかないと難しい。2030年にCO2をどうするかということもあるが、森林がどうなっているか、持ち主もいなくなり、どこまで把握できるか考えていかなければいけない。

■委員 私も50歳になる。東京や都市部に出張すると、恵那市の景観や、空気のきれいさを感じる。池袋辺りを歩くと、生ごみ臭く、早く恵那に帰りたいと最近すごく思うようになった。基本理念の、将来像「人・地域・自然が輝く交流都市」の中に、「青：澄んだ空気と多様で清らかな水辺」が重要になってくるし、「緑：豊かな森林や暮らしと共に築かれた里山・田園」、この辺をCO2の削減と共に残していくことが大事だと思う。一方で、商工会議所としては、ビジネスの発展において、それと相反する部分がある可能性もあるので、その辺りを各企業で注視しながら、企業の存続に努めていくべきだと思う。

将来像だけだとぼんやりしているので、ビジョン、例えばこれをもって住みやすく、子育てしやすいという具体的なビジョンが描かれると、市民の環境意識の醸成に繋がると思う。

■委員 20年後の人口について、毎月、地域自治区の会議で恵那市の出生数の報告がある

が、年々減っている。去年、恵南は 50 人に満たない。その子たちが 20 年後に成人すると、自ずと人口が減っていく。恵南は山の面積が大きく、豊かな自然と言うが荒れている。個人的に興味があり、自分のところの周りの山を刈って、杉ヒノキを切って広葉樹を植えている。そうすると草刈りが大変。それでヤギを飼い出した。観光協会として、ヤギを飼って岩村城の草刈りをやってみる。観光協会で 1 頭、個人で 2 頭を飼い始め、ヤギの勉強をしながら飼っている。業者でやる草刈りが環境を保つためにどこまで必要なのか。本当は必要じゃないのかもしれない。一度行動してみようと、先月から始めた。

20 年後若い子に戻ってきてもらえるような豊かな市。子どもたちの教育が大事。父母が興味がないのに子どもが興味を持つケースはあまりない。親である私たちからの必要性をもっと発信していくべき。環境を守ることがスマートで格好いいということを、文字だけでなく、かっこよさを打ち出した見せ方、伝え方が大事。

■委員 市制 20 年、計画が出そろったというところだと思う。次の段階は具体的な形で表していくことだと思う。

薪ストーブは、そういう暮らしをしたい人は多いと思う。私も 30 年やっている。ただ、やりたい人には森を提供するから、自分で切ってというようなことまでやってあげるといい。薪を集めるのは大変で素人はなおさら大変。使いたくても敷居が高い。林政課ではチェーンソーの講習会もやっているの、それも紹介するといい。

コンポストについて、生きていれば食べ、残渣が出る。それを捨てずに生かす。コンポストをどうですかというところまではやっている。今、市民農園はなくなったが、そういうところを作ってそこに自分で作った堆肥を持って行って、野菜を作るときに指導してあげて、成果物ができるとやる気が出ると思う。そういう具体的な施策を出していくことが大事だと思う。

昨年、住みたいところ日本一に恵那市が選ばれたそう。移住者はそういう意識が強いので、そういう人たちに向けた施策を行っていくといい。

■委員 持続可能をテーマに考える。人口減少を踏まえて。環境は、人口が減れば負荷は減るが、それをどう適正に処理するかという観点をきっちり整理するとともに皆さんの意識として入っていくと思う。不法投棄も、どうしたらいいか分からないから投棄する。環境分野でも教育していくしかない。

■委員 住民がどういう地域を作りたいかということが重要だと思う。

住む人の感覚から言うと、困っているのは、そこでずっと生活できるか、衣食住が確保できるか、その根源的な問題の解決ができるかということ。

岐阜県郡上市石徹白の事例を紹介すると、観光資源もないところで、マイクロ水力発電をしている。そこで自分たちの必要なものは全部確保できる。荒廃した農地を活用し、電力の売電でまかなって徐々に回復したりして、もう限界集落のようになっているところだ

が、若い人が鹿児島や各地から集まってきており、子どもの多い家庭が多い。3、4人とか。食があって電力がある。エネルギーは結構問題になっているが、食料費が結構上がっていて、そういう食料危機の話を考えたとき、おいしい食べ物があって安全で環境が良く産業があり、商売もできて経済的なところも確保できる。ライフラインに対する不安がないというところが非常に大きい。電気自動車も、国の立場では推進するから入れてくださいということだが、それだと何のストーリー性もない。本当にそれで回るのかというと、発電すれば環境破壊に繋がる可能性もある。例えば、地場で、最近富山では水素発電装置という廃アルミを、アルミ回収、水酸化アルミニウムにする。それがプラ水素になる。廃アルミの処理をするコストより出てくる水酸化アルミニウムや水素を売った収益があり、それで発電したり水素自動車、電気自動車を動かすということであれば、地場で生まれたエネルギーで循環できる。そういうストーリーができる。

20年、30年、どういう形で生活基盤を確保できるかを見せられれば、人は集まってくるし、子どもを産んでも育てていけるという安心感がある。外的要因に影響されない、自分たちで何とかできるというところを確保することがポイントだと思う。

■委員 20年先というと、恵那市の高齢化率が50%に近づく。子ども、高齢者が最終的に安心して住み続けられるまちというのが一番大事。振興事務所、小学校なりを中心とした、子育てしている人、高齢者のそれぞれの施設が大変なので、そういうのでお店があったり学校があったり病院があったりという、歩いていける感覚のコンパクトシティを作ったらどうか。元気な人は今の家に住めばいいが、最終的にそういうところで協力しながらやっていくのが良い。今、恵那市では南中学校の問題が出ている。20年後は小学校がどうなるか分からない。三郷で令和5年度に生まれたのが4人で市内には0のところもある。小学校の存続も難しくなる。そういうことも考えながら誰もが安心して住み続けられるまちを作っていくといけない。コンパクトシティを作ることで、農林業に携わる人もそれなりに、少なくなるかもしれないが、やれることをやる必要がある。

■委員 地球温暖化の問題が地球規模で最大の問題である。ゼロカーボンシティ恵那をきちんとやりとげることが大事。2050年ではなく20年後にゼロカーボンが達成できたらいい。そうすれば全国にもアピールでき、恵那市の魅力づくりに繋がる。私はゼロカーボンにこだわって進めたらいいと思う。

■副会長 三郷に住んでおり、最近、野生動物が多くて困っている。実家は牧場で、牧草地で牧草を育てる。タネを蒔くと、鳥は来るし、育つとカモシカやシカにやられてなかなか採れない。20、30年後には野生王国になる。今は動物が来ないように柵をやっているが、動物が入らない柵の中に人が住むようになる。そうすると、コンパクトシティ、人が住むところ、農業するところ、林業するところ、どうしようもないところ、そういう部分を分けていくしかない。ただ、反面、市内の資源を市で見定め、例えば自分で裏山を整備した

りしているところへ支援したり、串原には移住する人が多い、グローバルさんなど新しい取組をしているところに共感した人が移住してきて人が増えていると思うので、市内で、個々でそういうことをやっていると思う。僕は牧草は輸入品を使わず自分で育てて牛を育てたい、恵那産の牛を売ってみたいと考えている。そういうところに応援する方法を支援してほしい。風力発電などもあると思うが、もう少し田舎臭いものに対して支援できる施策があってもいいと思う。

■議長（会長） 興味深く聞いた。中部大学は恵那にキャンパスがある。そこで恵那のことを大学と一緒に考えようと、ここ何年か、地域共創の場という、JSTの案件に公募に提案をしている。そこで、日本の中山間地域がこれからどうなっていくか、特に野生動物と人間とのせめぎあいが一番大きな問題になっているので、人と動物との関係をどうするかということも、今大学で、例えば京都大学と一緒にあって、人と動物の新しい関係をもう一度見直すということをやっている。そこでの恵那での目標は、地域コミュニティをどう維持していくかということ。いろいろなところから恵那に関心を持ってもらい、人が入ってくるということを、ナチュラルワーカー、自然の豊かなところで暮らしたいという若い世代が、特に都市にはたくさんいて、そういった人たちと一緒にあって地元の人と新しい恵那を作っていくことができればと考えている。

今日は頭出しをした。文書としても回答して何か出していただければより具体的になる。この審議会は年1回だが、こういう話は膝を詰めてじっくりやった方がいい。できればそういう機会を設けてしっかり継続的に議論して考えていきたい。

6. その他

■事務局 たくさんのご意見を頂いた。今後の業務、計画づくりに反映させていきたい。

6 その他は特にないので閉会いたします。

7. 閉 会

■事務局（進行）最後に、副会長が閉会のご挨拶を申し上げます。

[副会長 挨拶]

■事務局（進行） 本日は、ありがとうございました。これにて令和6年度第1回環境審議会を終了します。気を付けて、お帰りください。

〔 閉 会 〕